

## 第363回 大阪大学臨床栄養研究会 (CNC)

日時：平成28年1月18日(月) 18:30  
場所：大阪大学医学部講義棟2階B講堂

### テーマ：「腎臓病治療における栄養の意義」

国立病院機構大阪医療センター 腎臓内科  
岩谷 博次 先生

医食同源と言われるように、食事内容・栄養成分が体を構成しており、健康や疾病の管理における重要性は誰もが認識するところである。また一般に多くのサプリメントも巷で流行っており、食事・栄養と医薬品の中間的存在といえるかもしれない。EBMに基づく医学・医療が推奨される中、運動や食事・栄養といった生活習慣に関わるものを長期間コントロールし、ハードエビデンスとしてその効果を検証することは、薬剤を投与してその効果を検証するよりはるかに困難であることは明白で、最もエビデンス創出の困難な領域ともいえる。

腎臓病における栄養といえば、減塩食、低蛋白食、低カリウム食、水分制限など様々なことが想起される。患者さんの目線から考えた場合、上記のうち、どれをどの程度とり入れるかを判断することは非常に困難である。病態に応じて適切に調整と表現されるが、腎臓が多くの機能をもった多機能の臓器であるがゆえに、またその進展度度合が種々存在するため、ますます分かりにくくしていると考えられる。

今回は、腎臓病において現在行われている実臨床での食事療法をわかりやすく概括するとともに、腎臓の最も根源的な仕事である食塩、水分管理と浮腫との関連などについて述べ、日常臨床でしばしば遭遇する病態において、演者が日頃より疑問に抱いていることなどについても述べたい。

世話人：栄養マネジメント部栄養管理室 長井直子  
E-mail: nagaink@hosp.med.osaka-u.ac.jp

---

次回、第364回 CNC は、巽智秀先生のお世話で平成28年2月8日(月)に開催予定です。